

中欧モダニズム／ローカリズム
— 問題構制と方法論をめぐる若手研究者ワークショップ —

日 時 : 2009年3月19日(木) 11:00~18:10

場 所 : 大阪大学待兼山会館特別室(豊中キャンパス)

<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/annai/about/map/toyonaka.html>

プログラム

[オープニング] 11:00-11:20

三谷 研爾

[セッション1] 11:20-12:20

川島 隆: モダニズム運動の中の「プラハ・サークル」の位置

休憩(12:20-13:20)

[セッション2A] 13:20-14:20

中村 真: 「民衆の作曲家」とは何者か

— ヤナーチェクの民謡研究におけるモラヴィア

[セッション2B] 14:20-15:20

池田あいの: ヤナーチェクの音楽的翻訳

[セッション3] 15:30-16:30

飯田皆実: バロック宮廷都市ドレスデンのモデルネ

[セッション4] 16:40-18:10

佐々木茂人/唐澤佑子/大矢章子:

チェコ・スロヴァキアのロマ文学の現状 — 文学研究・人類学的アプローチから

趣 旨

芸術や文化をめぐる言説においては、モダニズムとローカリズムとは対立的にとらえられることが多い。その場合、後者には「地方性」「保守性」「閉鎖性」といったネガティブな意味内容が付与され、前者の阻害要因とみなされている。他方、後者によって前者が活性化される場面では、そうした芸術表現の更新をもたらす「風土性」「土着性」「生命力」などが、しばしば無条件に称讃されてきた。このワークショップでは、国民国家の首都を舞台に展開するモダニズムと、地方都市にあって変革や刷新をこぼむローカリズムという従来の単純な対立図式を再検討する。とりわけ、ローカルな世界に内在的に働いているモダニティの様相を、中欧各地の具体的事例に即して検証をおこなう。それによって、ローカルティとモダニティの対立と交流の実態を立体的に把握するさいの問題設定ならびに方法論について論議を深め、関西在住の若手中欧研究者のネットワーク構築を図る。

発題者

飯田皆実（大阪大学文学研究科博士前期課程在学）
池田あいの（京都大学人間環境学研究科後期課程満期修了）
大矢章子（神戸大学国際文化学部在学）
唐澤佑子（大阪大学人間科学研究科博士後期課程在学）
川島隆（京都大学文学研究科非常勤講師）
佐々木茂人（大谷大学文学部助教）
中村真（大阪大学文学研究科博士後期課程満期修了）

主 催

大阪大学グローバルCOE「コンフリクトの人文学」サブプロジェクト
「美的近代におけるローカリズムと反ローカリズム」（代表・三谷研爾）

問い合わせ先： 大阪大学文学研究科 三谷研究室 Tel: 06-6850-5116
大阪大学大学院人間科学研究科 GCOE 事務局
gcoejimu@hus.osaka-u.ac.jp Tel: 06-6879-4046